

琉球大学学術リポジトリ

台湾の農業事情 (上) ー水利開発・増産方策ー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 真保, Arakaki, Shinpo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20660

台湾の農業事情

水利開発・増産方策

(上)

1961年夏、丁度1月間、米国アジア財団の援助によって、台湾の農業を視察する機会を与えられたので、その概要を紹介したい。

1. 台湾の概観

先づ台湾の概観を見ると、その位置は沖縄の西南ほぼ21度30分から25度30分迄南北に伸びて丁度甘藷の形をなす。台湾の南3分の1を画する嘉義附近を北回帰線が通っているから島の南部約3分の1の面積が熱帯圏に入っている。与那国島の西方で晴天の日には同島が遠望できる由。面積は3,576,000haで琉球の総面積の約15倍。島の東部は3千米以上の山脈が南北に走っているの、西部海岸沿いに南北に展けている平野が農工商等諸産業が活発に営まれている地帯であり、台湾の重要地域、従って人口密度も高い。農用地(耕地)は全面積の約30%で、琉球の18.8%、日本の15.8%より遥かに率が高い。

平地に於ける年平均気温が北部の台北で21.7°C、南部の恒春で24.4°Cの間にあるから那覇の22.2°Cより大部分の平地は稍々高く、熱帯、亜熱帯の各種農産物は豊かに実っている。而して台湾で忘れてならないのは東部を縦走する3千米以上の山脈(その最高峰、昔の新高山、今は玉山と呼ばれ標高3,950米)の極めて高い山地である。これら高地は標高を増す毎に気温が下り、年間を通じて霜をむすぶ地域は少なくない。熱帯地の台湾ではあるがそれらの高冷地を利用して周年温帯農業から寒帯農業までも出来る訳で、青野菜は年中出廻るし、温帯

果樹の梨、リンゴ、ブドウ、柑橘類も豊富である。比島パギオに於ても高冷地農業が発展しているそうだが、斯様に熱帯地の台湾に於いても周年熱帯農業は勿論寒帯農業をも実施出来るということは極めて重要な意義をもっている。

台湾の人口は戦前(1940年頃)600万人位だったのが現在約1,200万人で倍になっている。而も毎年36万人の増加だという。

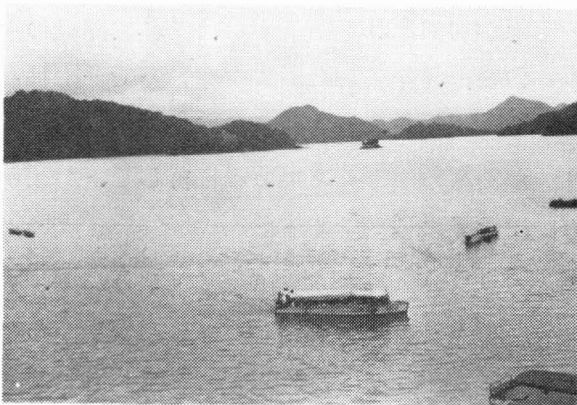
耕地面積の拡張と優良品種の普及、耕種法の改善、水利開発等により毎年の水稻増産が糧で5万4千屯程あるが、食糧の増産確保ということは人口との関係もあって最大の使命であり、そのことについての官民の努力は一方ならぬものがある。従って農産物特に食糧作物類、特に水稻の増産に就いては何物よりも優先されて、あらゆる分野から増産の措置がとられている。

2. 台湾の農業

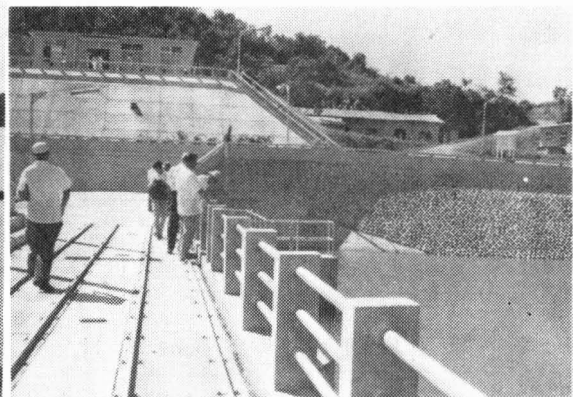
台湾農業の性格とか重要点というものは既述の台湾の自然条件と人口問題とによって形成されてくるし、それに就いては当然斯くあらねばならぬという農業問題が官民一致の努力で強力に推進されている。要約すると次の二点にしばられる。

- A. 食糧の増産確保、その自給と余剰農産物の輸出。
- B. 外貨獲得のための増産。

上記の使命達成のため次の如き事業が強力に推進されている。



日月潭ダム



竹南大ぼダム

① **水利開発** 温度や日照に恵まれている台湾ではあっても水が欠乏しては農業はやれないので、最も重要視し、最も力を入れているのが水利開発である。代表的なものに戦前からの偉大な設備、台湾中部山中の日月潭ダム、台南県烏山頂ダム(嘉南大しゅう)等はその規模の大きさと効果の甚大さで特に有名であるが、戦後建設され又建設中のものに、新竹県の大ぼダム(灌漑面積1,343ha、有効容量640万立方米)、桃園県の石門ダム(灌漑面積58,000ha、8万7千5百KW発電、工事中で1963年完成予定)等巨費を投じたダムがある。又台湾省政府農林庁水利局に地下水工程処という役所が台湾平野の中央部雲林県斗六にあって全島の地下水開発を推進している。

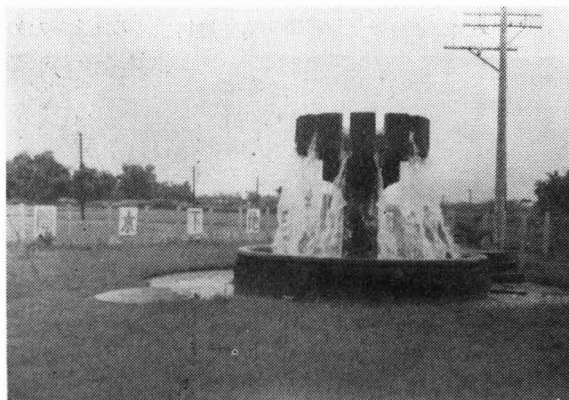
それは台湾の農業用水がダムの水だけでは不足であるとして、1951年台糖会社が、翌年台湾農復会が米国の技術者を呼んで台湾全土の地下水を5kmおきにボーリング調査した結果、良好であることが分ったので、ボーリング機械西独製3、米国製3、計6台を購入し、全島に亘り取敢えず1,600井戸を計画し、一昨年既に300井戸完成した。年200井戸完成の予定だったから今日迄には約700の電気揚水井戸が完成しているだろう。之等の揚水灌漑井戸は、短期間に多くの灌漑面積を増せる点、経費がダムに比べて遥かに安い点及びダム建設不能の土地にも建設できる点等で水利開発上まことに理想的であるとのことだった。此の井戸一本につき、10日位の工事を要し、毎分平均湧出1,400ガロン、218ha(町)の田地に灌水できる。一井戸約1万弗の経費を要するが組合員の10年間の利益で年賦償還する仕組みになっている。ダム建設に限度があり、水利のひどく悪い琉球では此の地下水利用に着目すべきだと思った。

② **土壌調査** これは省農林庁が中心となり、省農試、台湾大学、農復会等の協力で全島一千里以下の丘陵地帯で10ha毎にサンプルを採り土地の物理、化学的調査を米国式に実施し、土地の高度利用を目的として行っている。台湾の面積の四分の三以上が丘陵地であるからその活用如何は実に大きな問題である。之等は国土開発であるが之と共に洪水や台風から国土を守る保全措置も併せ講ぜられていることは云うまでもない。

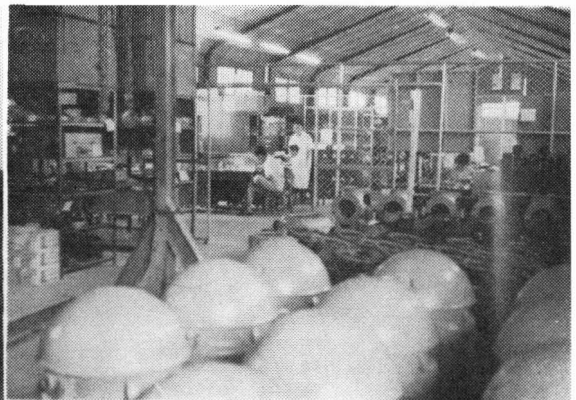
③ **土地の改革** これは1949年農民の増産意欲の高揚、土地所有と土地使用の合理化、民生の安定向上を目標に実施された制度であるが、これに伴い政府有地の民間への払下げ、小作農から自作農への大巾転換、小作料の改善、不労地主の工商業転出等が実施され、結果として土地の合理的使用により莫大な増産がもたらされた。

耕作者はその能力に応じて耕地所有を許され、政府有地は地代を年生産物価額の2.5倍と決められ、7割は生産物、3割は公費で10年間年賦で払下げることが規定されている。土地改革の前と後の自小作別を見ると、改革前の自作農家及び自作農地共に57%だったのが改革後では自作農家80%、自作農地87%にふえている。ために改革前に比し産米量185%、農家収益156%に夫々増加した。

農民の生活は著しく向上し、就学率は77%から95%に向上、農家出身の大学生1,204人(1960年)、各種自治団体の代表3万数千人に及んだ。序でに台湾の農家一戸当りの平均を述べると家族数6.3人、耕地面積1.15ha、農業年所得570弗で琉球の年間農家一戸当所得の約3.6倍の高率を示している。(つづく) (新垣真保)



いきおいよくふきあげる電気式揚水井戸



地下水工程処の揚水機